

平成21年度

特別支援教育についてのアンケート

集計結果と考察

平成22年7月

東京都私立幼稚園連合会

## 第1章 はじめに

東京都では、「東京都特別支援教育推進計画第二実施計画」を平成19年11月よりスタートさせた。これは、就学前の特別な支援を必要とする子供に対して、個別の支援計画に基づいた支援を実現するために、それぞれの機関で個別に対応している乳幼児期における支援体制を一貫したものにし、就学前から学齢期への円滑な移行をはかるものである。具体的には、発達障害を含む障害のある乳幼児の早期支援のために、福祉、保健との連携の在り方を検討するとともに、モデル事業を実施して実践的な研究をおこなうものである。平成20年には検討委員会が発足し、21年にモデル事業を実施、評価検討しながら平成22年度から全都拡大されていくことになる。

東京都私立幼稚園連合会は、東京都教育庁が主催する「特別な支援を必要とする子供に対する関係機関の早期支援の連携に関する検討委員会」に参画して、関係機関との意見交換を行ってきた。

小学校からの特別支援教育の重要性はいうまでもないが、その前段階である学校教育の始まりとしての幼稚園教育が果たす役割も同様に重要である。

発達障害にかかわるシンドロームの発症認定は、おおよそ生後30ヶ月くらいからと言われている。また、予後の生活改善のためには、早期対応の大切さが指摘されている。このような状況においては、3歳からの幼稚園教育、とりわけこの時期からの特別支援教育の充実が重要なものと考えられる。またさらに、この状況に置かれた親の立場になってみると、我が子の発達の遅れなどが徐々に顕在化しつつある中で心の労も相当なものであり、幼稚園は幼児と共に親自身の対応も避けては通れない。

都内において私立幼稚園に通園する幼児は161,207人（平成20年度）であり、これは幼稚園に通う幼児総数の91.6%である。東京都の特別支援教育がよりよいものとなっていくためには、幼稚園の積極的なかわりと協力が肝要であり、その教育効果をよりよいものとするためには、幼稚園に対しての公的な支援の充実がその支えとなるものと思われる。

東京都私立幼稚園連合会では、まず教育研究委員会に小委員会を設置し、東京都の私立幼稚園が果たすべき役割についての研究をするために、加盟各幼稚園に対して、受け入れの実態調査を行うことにした。また、その調査結果を受けて、全日私幼連東京地区会教員研究大会・特別支援教育分科会において、具体的な取り組みにおいての意見を得た。

本報告書は、その結果と考察をまとめたものである。

（東京都私立幼稚園連合会 教育研究副委員長 加藤篤彦）

## 第2章 調査の概要

### 1. 調査の目的

東京都の私立幼稚園は、特別な支援を必要とする幼児をどの程度受け入れているのか。特別な支援の必要な幼児やそのご家族に対してどのような対応をしているのかなどの実態を把握する。

また、特別支援教育を進めていくための課題を把握する。

### 2. 調査対象

東京都私立幼稚園連合会加盟園 815園

### 3. 調査時期

記入するための基礎的なデータは、平成21年度の実績値とする。

平成22年3月20日から4月15日までの間にアンケートに記入して回答を受けた。

### 4. 調査方法

アンケート用紙を加盟各幼稚園に配布する。

記入した回答用紙は、原則的に東京都私立幼稚園連合会事務局にFAXにて回答を受けた。

### 5. 調査項目

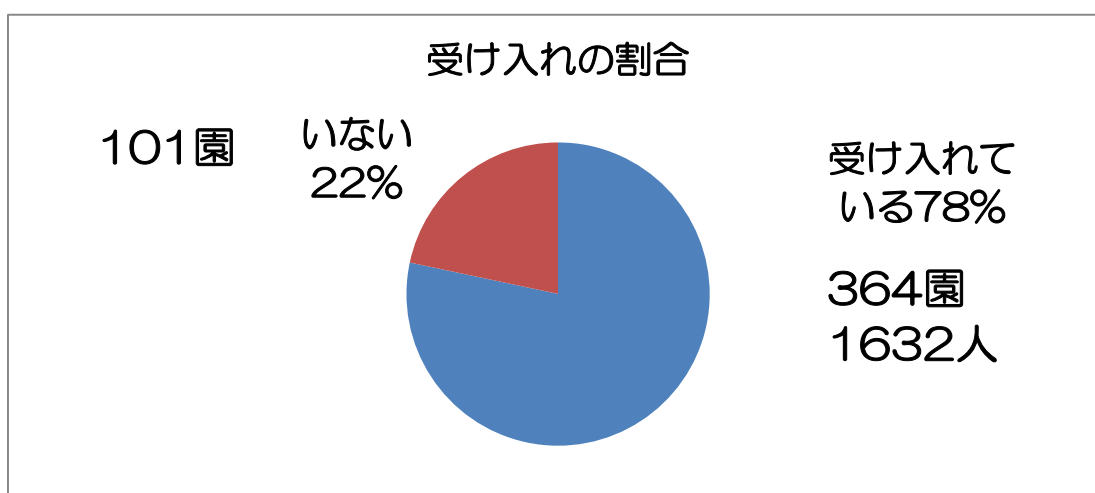
調査用紙を見本として巻末に添付した。

### 6. 回収率

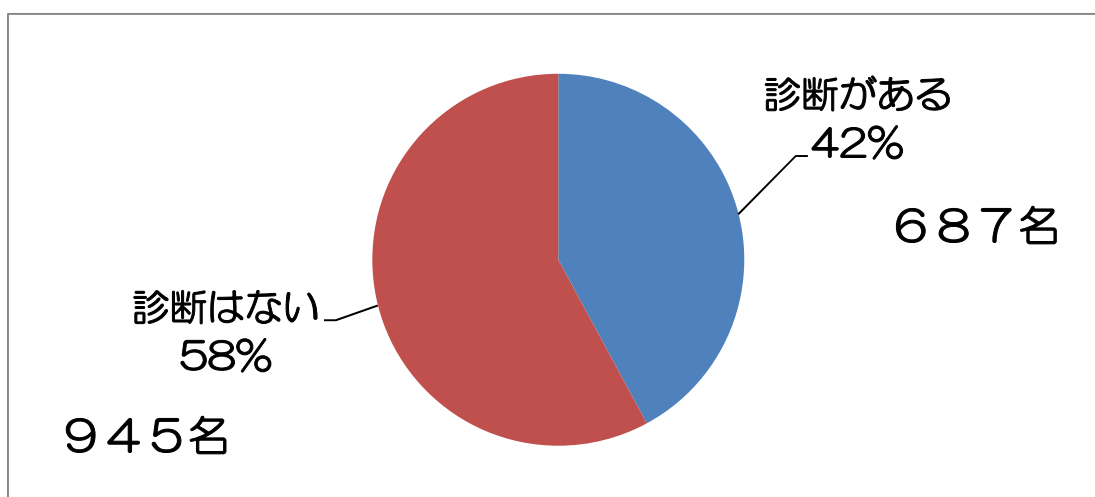
465園から回答を得た。回収率は57.1%である。

### 第3章 調査結果

#### 1 発達が気になる幼児を受け入れている幼稚園数とその割合、対象の幼児数



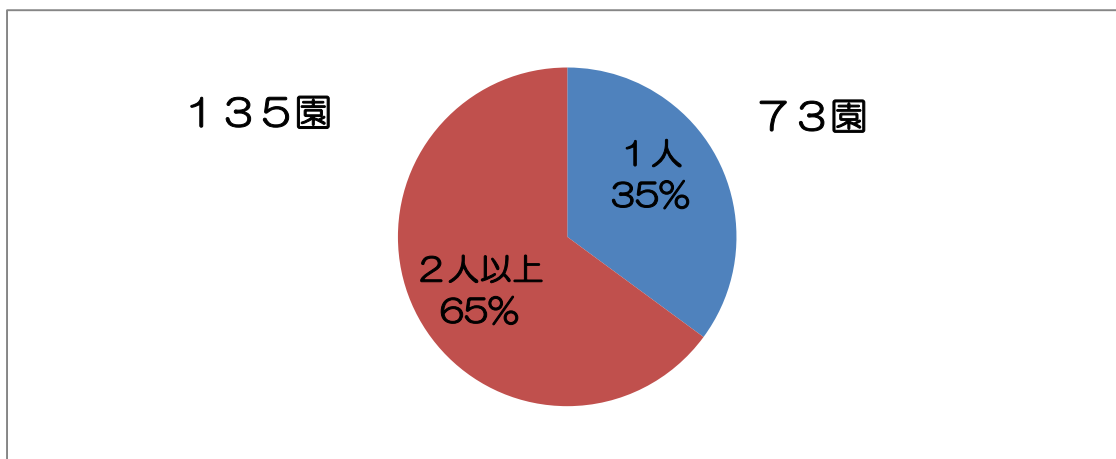
#### 2 発達が気になる幼児1632名のうち診断がある割合



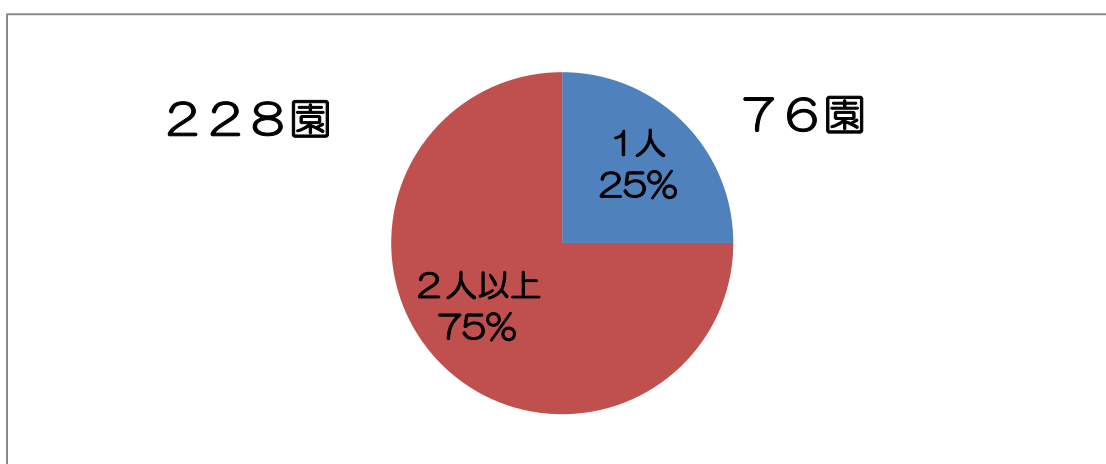
- ・この調査において、診断のある幼児687名の把握ができた。  
東京都に補助申請している実績値（項目11・参考資料）は、895人である。  
したがって、調査回答のなかった幼稚園にも多くの診断のある幼児が在籍していることが分かる。

3 発達が気になる幼児を受け入れている幼稚園のうち

a 診断のある幼児を複数人受け入れている幼稚園の割合

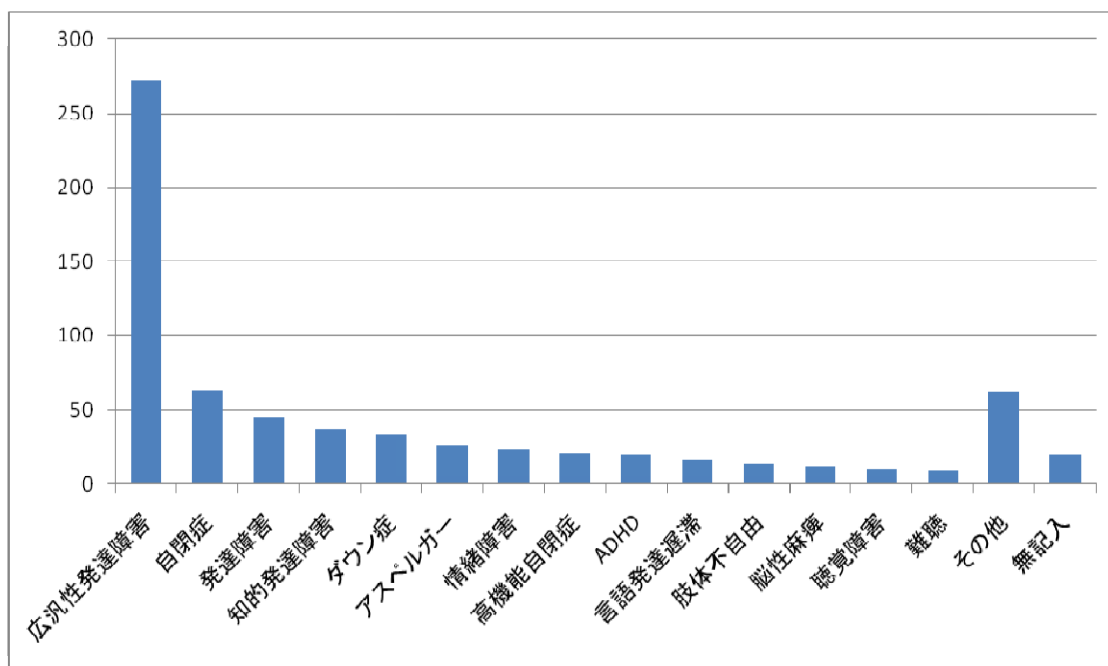


b 診断はないが発達が気になる幼児がいる幼稚園の割合



(注) 診断のある幼児と診断がない幼児の受け入れは複数回答。

#### 4 発達が気になる幼児の診断名について

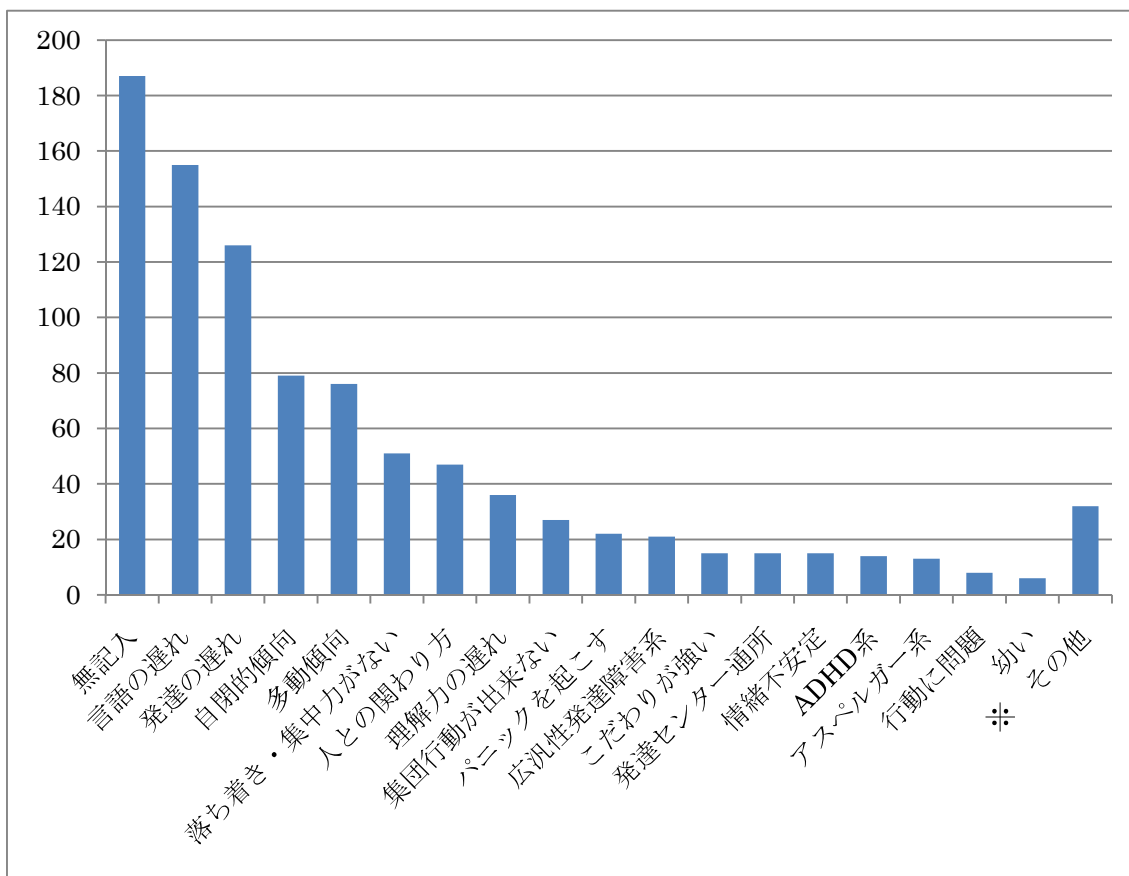


広汎性発達障害	273
自閉症	63
発達障害	45
知的発達障害	37
ダウン症	34
アスペルガー	26
情緒障害	23
高機能自閉症	21
ADHD	20
言語発達遅滞	16
肢体不自由	14
脳性麻痺	12
聴覚障害	11
難聴	10
その他	62
無記入	20
計	687

上記62名の内訳	
視覚障害	5
身体障害	5
てんかん	5
先天性障害	4
腎臓病、発達障害、境界域	3
境界域精神遅滞	2
筋ジストロフィー	2
肢四体幹機能障害	2
疾病による障害	2

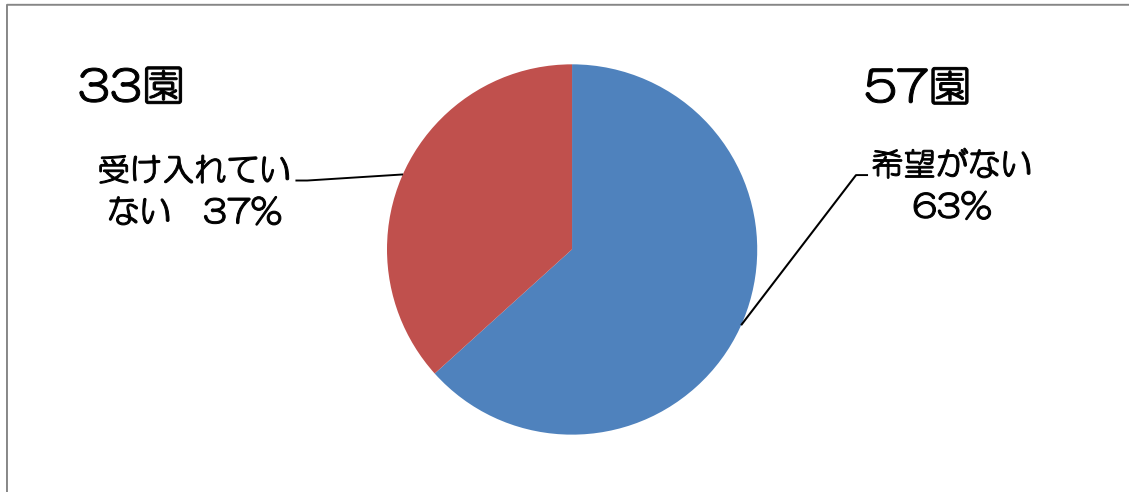
身体障	2
二分脊椎症	2
両下肢機能障害	2
ウィリアムズ症候群	1
下垂体ホルモン低下症	1
歌舞伎症候群	1
歌舞伎メイキャップ症候群	1
気管支切開・胃ろう	1
急性脳炎脳症	1
血友病	1
原発性氏リンパ血症くる病	1
重度心身障害	1
心身の発達の遅れ	1
新生児仮死	1
水頭症	1
スタージウェバー症候群	1
先天性骨形成不全症・骨折	1
前庭水管拡大症	1
多小脳回症	1
多発神経炎CIDP	1
軟骨無形成症	1
場面緘黙	1
表出性言語障害	1
ファロー四徴症	1
不定形自閉症・軽度知的障害	1
プラダーウィリー症候群	1
ホルトオラム症候群	1
慢性腎不全	1
レックリングハウゼン病	1

5 診断はない幼児の中で、発達が気になるところ

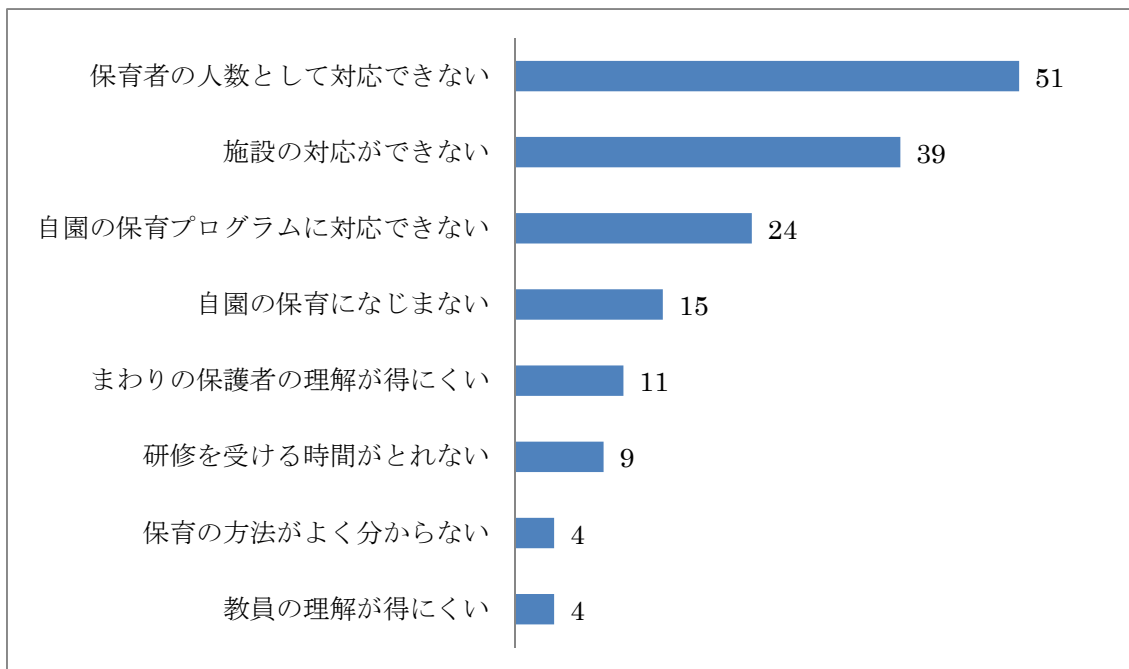


無記入	187
言語の遅れ	155
発達の遅れ	126
自閉的傾向	79
多動傾向	76
落ち着き・集中力がない	51
人との関わり方	47
理解力の遅れ	36
集団行動が出来ない	27
パニックを起こす	22
広汎性発達障害系	21
こだわりが強い	15
発達センター通所	15
情緒不安定	15
ADHD系	14
アスペルガー系	13
行動に問題	8
幼い	6
※ その他	32
計	945

## 6 受け入れていない幼稚園 90園についての状況

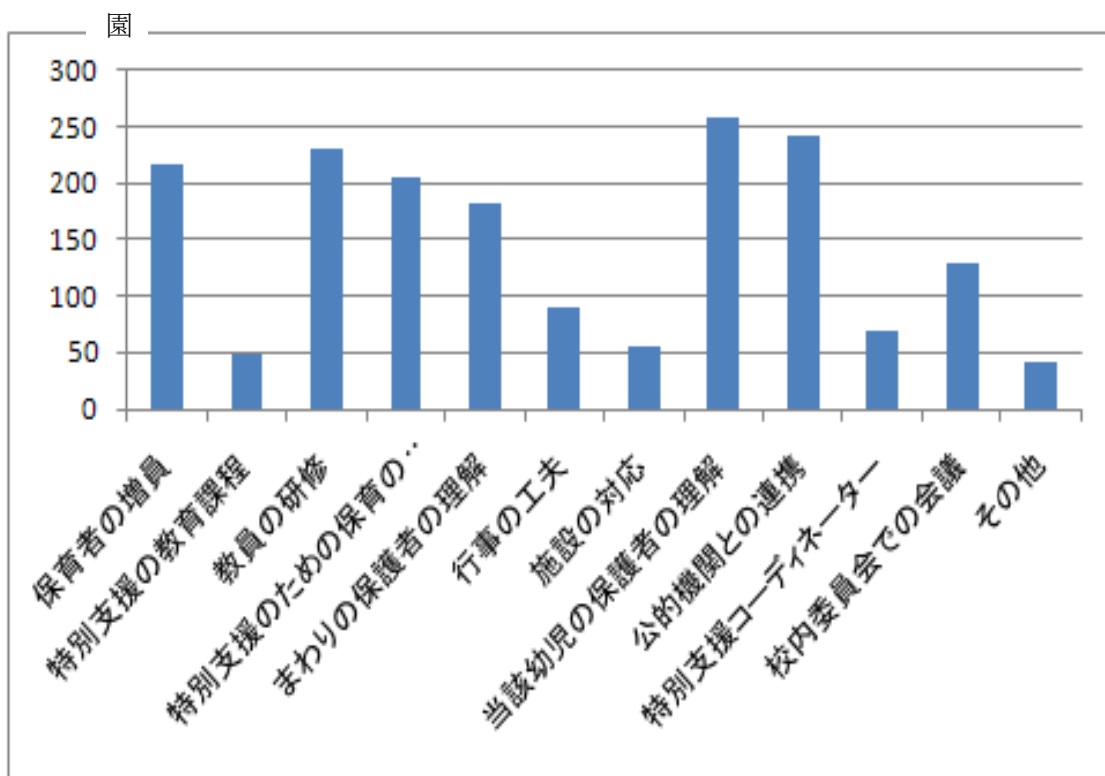


## 7 受け入れていない幼稚園33園での理由

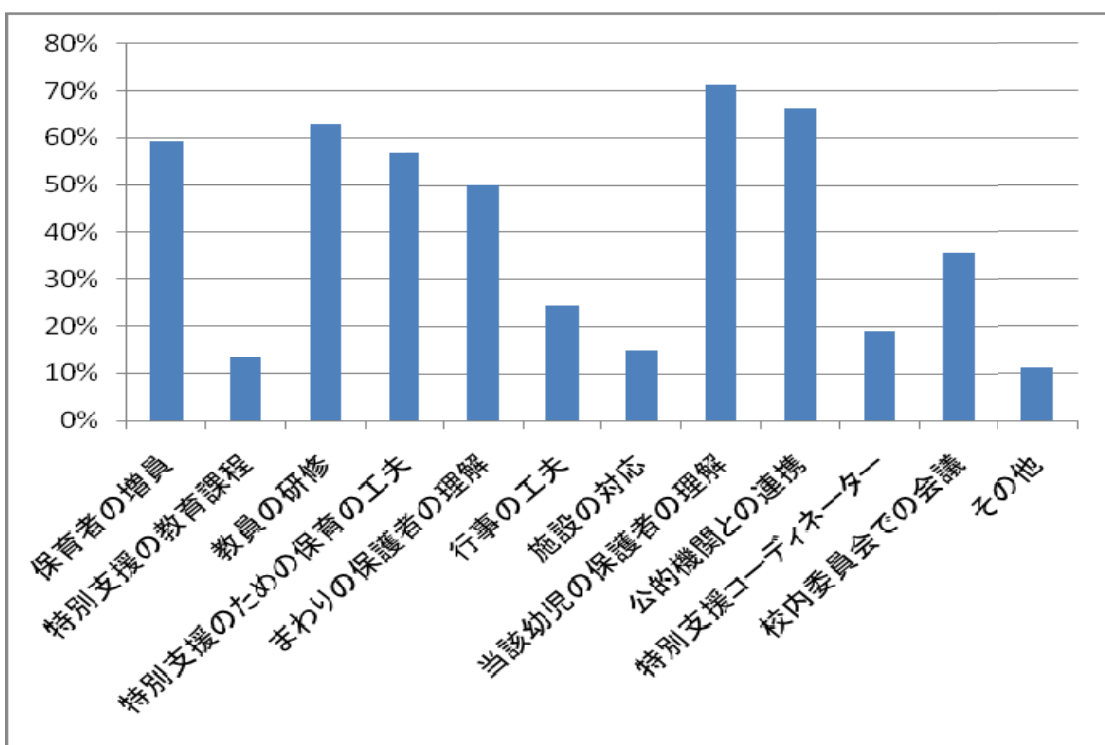




8-a 発達が気になる幼児を受け入れる上で、幼稚園が留意している点について



8-b 割合での表示



9 アンケートにていただいた自由記述の意見のまとめ

現在の補助制度についての意見	
公立との公平さが必要	3
診断書があるが同意書がなく(拒まれ) 公的支援がうけられない問題	3
都・区市をまきこんだ体系的な補助制度の確立	1
市区町村格差解消	1
どの子にも公的な診断書を求めることが前提であることが疑問	1
入園後に発達がゆっくり変化してくる。その後の保育や人数などの対応が難しい。	1
補助金についての意見	
都の補助金が、対象児が2名以上と1名で金額が違うのがおかしい	3
特別支援教育に対する補助金が少なすぎる	1
発達センターの巡回で「人の配置が必要」と認められれば補助金が出るようなしくみづくり	1
補助対象の決定を柔軟化する必要	1
診断書・手帳の有無で処遇があまりにも違う現状に大きな問題を感じる	1
公的な療育センター等へ通所しているだけでも「特別な支援が必要な子」とみなしてほしい	1
各園が障害児への理解を深め、受け入れができるよう積極的な施策を期待する	1
診断書の提示や補助金の申請は保護者に抵抗感があり軽度の場合はあえて求めていない	1
診断にかかわるご意見	
入園時点では分からない。あとからフォローする必要がでてくる	4
発達の状態を判断するのは難しい	2
都や区から専門の先生を派遣してもらい、子どもを観察して書類を発行してもらいたい	1
3歳児検診で指摘がなくても、後から発達が違ってくる場合がある。行政も親も理解してほしい	1
3歳では医師や発達センターも判断できず診断がくだされなかった。	1
教師等の増員についての意見	
支援のために人を増やしているが、人件費が負担。補助金が必要	10
特別支援には、個別に関わる先生が必要	4
年度途中で障害が分かった子への対応で増員する場合の補助金が必要	2
専門の先生への依頼にかかる費用補助が必要	2
ボーダーラインにいる幼児への保育で増員する場合の補助金が必要	2
教員を増やしたいが経済状況的に難しく、担任の負担が大きくなってしまっている	2
入園後に障害がわかり、保育者を増員しようにも先生がいらない。人件費もかかる	1
対応については保育者の人材確保がいちばんの難題	1
発達診断で問題ないとすると、親は安心するが、実は幼稚園では非常に手がかかる	1
公的支援センターや専門家とのかかわり	
気軽に相談にのって指導面を教えてくれる専門家がいるとありがたい(定期的)	7
言語療法士・心理療法士の方に巡回相談に来てほしい	2
専門機関の訪問回数を増やしてほしい	1
公的支援センターに申し込んでも、順番がまわってこない上、1回だけ	1
診断できる医師が一学期中に幼稚園に来て、集団の中で様子を見てほしい	1
区の相談機関によっては、子どもを集団の中で見ないので適切な指導ではないとおもった	1
行政からの働きかけがない(私学にはいないという認識?)	1
発達センターなどに相談に行っても結果を保護者に伝えないので園で見守るしかない	1
私立としての情報や連携できる専門機関のネットワークがほしい。公的補助をいれもらう	1
世田谷区では区の機関から臨床心理士が年2回ほど来園し子どもの様子を見に来てくれる	1
大学附属のため大学の先生からの支援がある	1
市の予算で2ヶ月に1回程度臨床発達心理士の私立幼稚園への巡回が実現	1
入園前からの相談施設との連携の展望は	1
都の特別支援教育事業補助金の実績リストはありますか	1

保護者への対応	
ボーダーラインの幼児の親の理解の促しに苦労している	6
診断名がなく気になる子供は親の理解が得られず難しい	5
当初、親が認識がなく、理解を得られない。園からのなげかけは難しい	4
親が障害をもっているかどうかを確信していない状況が難しい	1
保護者への意識改革(早期診断の必要性の認識)が強く望まれる	1
特別支援教育という名前は不要。特別視せず、その園児にあった保育・援助をしていく	1
入園前の家庭教育が十分でない	1
気になる子に対して保護者へ伝えることが難しい	1
保護者からの希望を尊重して無理な行事参加はさせていない	1
入園前に親が正直に話してくれない。気づいていないなど、親の対応が大変。	1
まわりの保護者への対応	
他児の保護者の理解・協力が難しい	2
まわりの保護者の理解を得るために特別支援教育の意味等をまとめて配布してほしい	1
幼稚園の受け入れについて	
障害児を受け入れている園にばかり、人数が集中する傾向がある	2
療育に通っているけれど、園生活で困ることのない子どもを受け入れている	1
入園前に自園の保育をよく伝えて相談の上で受け入れている	1
他にも受け入れたいが、自園の能力範囲での受け入れとし、能力アップまでは考えていない	1
気になる子は増加傾向にあり、対応に苦慮	1
教員同士の協力の必要性	1
研修へのご意見	
特別支援研修の活性化を望む	1
特別支援教育についての研修等が増えてきたことは、保育者や保護者の理解も進んでよい	1
ひとりひとりの対応が違ってくるので、教員の質が問われる	1
発達気になる子の保護者のための講座があるとよい	1
高度な専門知識・技術を完全に身につけていないと対応はできない	1
就学支援シート・特別支援計画にかかわる意見	
共用使用できる支援計画を作りたい	1
シートの作成は三学期であり担任の仕事を圧迫。必要により補助教員を配置している	1
シートをどのように活用していくのか、第一歩目から大きな課題がある	1
診断もあり保育者も増やしたが適切なプログラムかが試行錯誤	1
小学校とのかかわり	
小学校入学への準備として、教育委員会や小学校との連携を期待している。	1
校内委員会についての意見	
幼稚園という規模のため校内委員会が機能していない	1
都私幼連として	
都私幼連の中に専門委員会をつくり、常時研究・政策提言等行えないか	1
都の教育庁、区市の教育委員会と都私幼連がもっと提携していくべき	1
気になるとは何か都私幼連としての指針を示してほしい	1
その他	
健常児との交流で双方ともに得るものがある。	2
手がかかり職員の数も必要だが保育的にプラス面もあり、可能な限り受け入れていきたい	1
発達気になる幼稚園教員への対応に頼らざるを得ない部分がある	1

教育研究大会（全日私幼連東京地区会）・第8分科会「幼稚園の特別支援教育」（平成22年7月22日）参加の78名の幼稚園教員に対して、各幼稚園における特別支援の実態についてのアンケートを実施した。その結果を分類して以下にまとめた。

○参加者の属性は以下の通りである。

- ・幼稚園には、特別支援児がいる 94%（73名） いない 6%（5名）
- ・幼稚園の所在地 23区内 62%（48） 23区外37%（29）

## 1. 教員の増員（加配）の必要性と工夫について

○あなたのいる幼稚園では、特別支援のための教員が増員されていますか。

- ・されている22%（17）
- ・されていない77%（60）
- ・不明1%（1）

○増員が必要だと思われる理由

- ・部屋からとびだしたりする当該幼児自身の安全を確保したい
- ・当該幼児が一人だけ遅れてしまうことに対応したい
- ・他園児に対するトラブル（他害行動など）に対応するため
- ・行事（お泊り保育など）を実施する場合
- ・当該幼児以外のクラスの一人ひとりに指導したい場合

○増員はされていないが、工夫している点

- ・気になる子を全員でみている（チーム保育含む）5
- ・保育者以外の方がみている（技術員、バスの先生、パートなど）4
- ・保護者についてもらう 2
- ・担任がその園児にあった保育をしている 2
- ・職員室に近い部屋にしている
- ・福祉センターや支援センターに相談している

## 2. 特別支援にかかわる研修について

○特別支援について、どのような研修を受けたか。今後どのような研修を受けたいか。

- ・受けた 49%（38）
- ・受けていない 51%（40）

○今までに受けた研修

- ・発達障害について（特徴など）5
- ・発達センターなどの施設見学 3

- ・関わり方、言葉のかけ方、他者との関わり方 3
- ・実際の保育の様子を映像で見ながらの事例について 2
- ・様々な園の事例を直接聞く研修
- ・親への対応、援助の仕方について

○今後希望する研修

- ・特別支援が必要な子への対応方法 1 6
- ・保護者への対応 6
- ・保育上の言葉のかけ方で気をつけること 2
- ・アスペルガー ADHDなど ひとつ一つの障がいについて 2
- ・気になる子の見分け方 1
- ・現場の先生の体験談 1
- ・健常児への理解をうながす方法 1

3. 特別支援児のために、保育ではどのような工夫をしていますか。

○教育環境で工夫していること

- ・視覚的に提示する 1 7
- ・個別で声をかける。 1 2
- ・いつも決まった言葉を使う。 5
- ・事前に気持ち作りができるようビデオや前のクラスのやっている様子をみせる。 4
- ・気持ちを落ち着けられる場所を用意する
- ・無理に参加させず、別メニューで行う。 3

○その他に工夫していること

- ・フリーの先生がつく 5
- ・自分の視野から外さない 4
- ・子ども同士が助け合うよう促す（本をよんできもちをつくる） 4
- ・市や区の発達支援センターの職員にきてもらう。 3
- ・職員全員で把握し、フォローする。 3
- ・苦手なこと、得意なことを把握する。 2
- ・職員がかかわりのモデルとなる。 2
- ・クラスの一員としての意識をもたせる 2。
- ・場面によって保育者を変え、気持ちの切り替えができるようにする。
- ・注意するときには周りの子からみえないところで行う。
- ・危険がないよう職員室で遊ばせている。

- ・けじめをつける
- ・施設面での改善（手摺りをつける、1階の保育室にする）

#### 4. 行事の時は、どのような工夫をしていますか。

##### ○本人への工夫

- ・できるところまで一緒に行く（個別プログラム、わかりやすい役にするなど） 1 2
- ・好きなものを用意して、落ち着いて参加できるようにする。
- ・絵カードを作る。 2
- ・同じように参加できるプログラムを考える。
- ・気持ちが解放できるよう、一人の時間も作る
- ・早くから練習に取り組む。 3
- ・行う手順を細かく伝え、安心して参加できるようにする。 2
- ・達成感をもてるようにする

##### ○環境の配慮（人を配置する）

- ・必ず担任や補助がついて参加する。（近くに安心できる人をおく） 1 6
- ・保護者に一緒に参加してもらう 6
- ・人員に余裕を持たせ、補助にはいれるようにする 4
- ・他の保護者やOBにボランティアで補助を頼む。 2
- ・担任の手元におく（3）
- ・保護者と連絡を取り、どの程度行えるか相談し行う。 2
- ・周囲の子にお手伝いをお願いする。 3
- ・安全面に配慮

##### ○位置の配慮

- ・並び順を配慮（目立たない位置に） 3

##### ○その他

- ・きにかける程度（あえて特別な配慮はしていない） 5

#### 5. 当該幼児の保護者の理解を促すために、行っている工夫はどんなことですか。

##### ○連絡をこまめにとる 63%（49）

- ・一日の様子をこまめに話す。 1 9
- ・頻繁に来園してもらい、様子を見てもらう。 1 0

- ・面談を多くとる 13
- ・お迎えの時様子を伝える。 6
- ・連絡ノートを作る

○話をする内容 26% (20)

- ・よかったことをはなすようにしている 8
- ・他の先生も見てくれていることを伝える。
- ・周りの子と比較するような言葉は使わない（そのこ自身の成長を）
- ・支援センターの人に幼稚園にきたいたく
- ・家での様子をききとり、一緒にすすめていく 3
- ・今後の予定を早めに話をして、見通しが立ちやすいようにする。
- ・園での方針をつたえる 3
- ・質問にきちんとこたえる
- ・一人で見きれない旨を事前に話す。

○その他

- ・園長と話す 6
- ・大学の先生に面談をする 3
- ・支援センターにってもらおう 4

6. まわりの保護者の理解を得るために、どのような工夫をしているか。  
今後どのような工夫ができそうか。

○保護者会で話をする 42% (33)

- ・年度初めの保護者会で、障害のある子の保護者から話をしてもらおう。 14
- ・保護者会で先生からその子の話をする 12
- ・保護者同士が話し合い、いろいろな気持ちを共感しあう。 5
- ・増員していることを伝え、安心してもらおう2。

○園に来園してもらおう 8% (7)

- ・園にきて、様子をみてもらう3
- ・トラブルが起きている状況をみてもらい、対応方法をみてもらう
- ・子供たち生活の様子をみてもらう
- ・平等に係わっているところをみてもらう
- ・特別支援児に係わってもらおう機会を作る。

○話す内容 13% (10)

- ・その子がいることで周りの子に育ついいところを話す。3
- ・ほかの子もきちんとみていることを伝える4
- ・トラブルの対処法をはなす3

○その他

- ・こどもたちを通じて援助が必要なことをはなし、保護者へ伝えてもらう。5
- ・行事のときにあまり担当が係わらないようにする。  
(ほかの子をみているというアピール)
- ・みているところでその子をしからない
- ・当該保護者が受け入れてないので、はたらきかけられない

7. 施設面ではどのような工夫をしていますか。またそれはどんな工夫ですか。

- ・工夫している 38% (30)
- ・していない 62% (48)

○工夫点

- ・手摺りをつける
- ・段差をなくす
- ・施錠を強化
- ・角のある物にはすべて ゴムのカバーをしている
- ・わかりやすいようにカードを貼る。
- ・トイレに入りやすいようキャラクターをはる
- ・大人がいろいろな場所にいてみやすいようにしている
- ・テラスから中が見えるように保育室を配置
- ・余計なものはったり、おいたりしない。

8. 市区町村の公的な相談施設などとは、具体的にどのような連携をしていますか。公的な相談施設に望むことは何ですか。

- ・連携している 70% (54)
- ・連携していない 30% (24)

○連携内容

- ・発達センターの先生が訪問し、気になる子を見てアドバイスをもらっている。6
- ・ケースによっては話し合う場を設けたり、連絡を密に取っている。5
- ・保護者の希望があれば、電話で集団生活について話し合いをする。2



- ・区の相談センターに、当該児・保護者・職員が行っている。2
- ・気になる子の発達テストを行う。
- ・保護者を通じて連携をとっている。

○今後望むこと

- ・定期的な視察を行ってほしい。(回数をふやしてほしい) 4
- ・保護者へ指導法を伝えてほしい。5
- ・定期的な先生の相談、勉強の場を設けてほしい。2
- ・どの施設とも同じように連携をとれるようにしてほしい。
- ・年長(未就学)以外の小さい年齢の子の相談もうけてほしい。
- ・各園に一人特別支援担当の先生がほしい。
- ・年中・長になれば面談を一緒にしていきたい。
- ・「大丈夫ですよ」と言わないでほしい。

9. 園内に特別支援の担当者がいますか。(例・特別支援コーディネータ的役割)

- ・いる 1%(1)      ・いない 99%(77)
- (フリーの先生、園長、パート、市の巡回、大学の教授など)

10. 特別支援児のために、どのような打合せをしていますか。

- ・主任、担任、補助の先生、前のクラス担任と細かく打ち合わせをしている。7
- ・毎朝、どのようなことをするのか、どこをがんばらせるのか話し合う。
- ・保育後は、どのような様子だったのか共通理解できるようにする。5
- ・週一回の話し合いで、変化、行動を皆で把握し、対応の仕方を同じにする。4
- ・何か問題が起きたり新しい情報や動きがあったら会議をする。3
- ・行事の時は細かく打ち合わせをしている。2
- ・事例発表の場があるので、全職員に事例を挙げ対応などを話している。
- ・その時期、その様子にあったものを常に提案できるようにする。
- ・経験のある先生と話し合う。
- ・大学の先生より指導を受けたことを共通理解できるように全職員で申し伝える。
- ・その子の特徴などをプリント(冊子)にして、職員会議で共通理解している。2
- ・健康状態を全職員が把握する。

11. 特別支援の教育課程、指導案を作成していますか。

・作成している1%　　していない 92% (72)　　その他 7% (5)

○その他

- ・学期ごとに担任が目標を考える
- ・週案に留意点記入
- ・会議で話し合う

## 第5章 まとめと考察

・幼稚園には、発達障害児や発達が気になる幼児が多く在籍をしている。

(第3章1・2)

・診断のある幼児に比べて、診断はないが発達が気になる幼児は、およそ2倍である。

したがって、診断という公的な証明を受けている幼児だけで、特別支援にかかわる保育実態とすることは難しい。(第3章2)

・診断を受けている幼児を受け入れている幼稚園では、2名以上の受け入れをしている幼稚園が65%を占めている。(第3章3a)

・診断はないが発達が気になる幼児がいる幼稚園では、2名以上の受け入れをしている幼稚園が75%を占めている。

・診断は、広汎性発達障害を中心にして、自閉症やアスペルガー、情緒障がい、高機能自閉症、情緒障がい、AD/HDなど発達障害にかかわる幼児が突出している。(第3章4)

・診断がないものの幼稚園において、発達が気になる幼児の気になる部分については、言語の遅れ、発達の遅れ、自閉的な傾向、多動傾向、落ち着きがない、人とのかかわり方、理解の遅れ、集団行動の遅れ、パニックを起こす、こだわりが強いなど、発達障害の範疇がほとんどである。(第3章5)

・受け入れない幼稚園は、入園希望がない場合が、63%と過半数である。残りの33園(全体の幼稚園465園からみると7%である)についても、受け入れない理由は、保育者の増員ができないためという理由が半数をしめている。(第3章6)

・幼稚園が特別支援のために行っている留意点で、もっとも上位をしめたのは、当該幼児の保護者への理解や支援にかかわることである。ついで、公的機関との連携、教員の研修、保育者の増員、特別支援のための保育の工夫、まわりの保護者の理解啓蒙と続く。すでに幼稚園は、当該幼児の保育のことだけでなく、その幼児の保護者の支援にかかわ

っている。さらに、まわりの保護者の理解啓蒙という対応もしていることがみてとれる。

(第3章8a b・第4章5・6)

・教師の増員を図っている幼稚園も多いが、人件費にかかわって、それができない幼稚園も多い。また、保育現場においても、保育者の増員を求める声大きい。

(第3章7・8・9)

・公的機関との連携の必要性は、幼稚園においても認識されている。順調に連携が推移していると思われる。公的機関との連携の筆頭には、支援センターとの連携があげられる。センターとの連携は、これからよりよくしていく必要がある。幼稚園として、期待する声が多い。同時に行政にもさらなる強化を求める声も多い。

(第3章9・第4章8)

・特別支援コーディネーターの指名は進んでいないことが分かった。教育委員会の機能強化が求められる。ただし、単に一律ということではなく、極端に規模の小さい私立幼稚園などへの配慮が必要である。

近年、幼児の育ちの場として、子供の集団教育を行っている幼稚園に対しての期待は、大きい。また、幼稚園教育を補完するしくみも整備されているわけではないがゆえに、子供の育ちは幼稚園という教育環境に大きく依存しているのが現状である。

一方、社会は多様化し、便利にもなっていく中で、家庭を含めてた子育ての教育力は低下している。一人一人を丁寧に見てあげなければならない時代になっている。さらに、発達障害にかかわるシンドロームが増加している中で、すでにどの幼稚園にも発達障害のある子供が複数名在籍している状況である。

幼稚園という子供の集団の中でしか経験できないことがある。だれもが大切にされ、それぞれの発達が保障されていくためには、早急に教員の増員がはかれるような公的な支援の強化が必要である。その中で、個への対応はもちろん、さらには子ども集団全体の教育力を高めいかなければならない。

行政においては、上記の教員増員にかかわる支援の他に、各市区町村においては、特別支援センターや相談施設と各幼稚園との連携が順調に進むような私立幼稚園を含めた定例的な地域ネットワーク会議の設置を求めたい。

また、教育委員会においては、私立幼稚園に対する意識を改革し、特別支援教育担当指導主事の配置と連携を求めたい。

## 第6章 資料

○平成21年度東京都特別支援教育補助実績

東京都補助実績				
	経常費	教育事業費	合計(園)	人数
学校法人	106	49	155	662
102条園		89	89	233
合計(園)	106	138	244	895

○アンケート用紙

都私幼連第 21154 号  
平成 22 年 3 月 18 日

都私幼連加盟園 各位

東京都私立幼稚園連合会 会長 北條泰雅  
教育研究委員長 友松浩志

### 特別支援教育についての緊急アンケート

平成22年度から東京都の全市区町村において、特別支援教育が本格実施され、就学支援シートなど、地域全体での取り組みが始まり、私立幼稚園がかかわる課題も増えてきます。

都私幼連では、本格実施前に加盟園の実態を把握させていただきたく、年度のかわり目でお忙しい中、誠に申し訳ございませんが、4月10日までに事務局まで返送をお願い申し上げます。

(別紙アンケート)

※ 該当する( )に○をして下さい。

平成21年度実績でお願いします。

☆ ご返送は ・FAX 可→ 03-3264-6195に送信して下さい。

・郵送の場合 → 〒102-0073

千代田区九段北 4-2-25 私学会館別館

東京都私立幼稚園連合会

1. 障がい児や、診断はないが「発達が気になる子」は入園していますか。

YES

YES	<input type="checkbox"/> 障がい児(医師の診断書がある幼児)が入園している 診断名→		人
			人
	<input type="checkbox"/> 診断はないが「発達が気になる子」が入園している 気になること→		人
			人

→設問2へ

NO

NO	<input type="checkbox"/> 障がい児(医師の診断書がある幼児)は入園していない <input type="checkbox"/> 発達が気になる子は入園していない	→設問Aへ
----	---	-------

A 理由

対象児の入園希望がない。→受入れ用意がある園は設問2へ、ない園は設問Bへ  
 障がい児や発達が気になる子は受け入れていない。→設問Bへ

B 理由 (複数回答可)

B 理由 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 自園の保育になじまない。	→設問3へ
	<input type="checkbox"/> 保育者の人数として対応できない。	
	<input type="checkbox"/> 自園の教育課程、保育プログラム、行事などに対応できない。	
	<input type="checkbox"/> 教員の理解が得にくい。	
	<input type="checkbox"/> 保育の方法が分からない。	
	<input type="checkbox"/> まわりの保護者の理解が得にくい。	
	<input type="checkbox"/> 研修を受ける時間がとれない。	
	<input type="checkbox"/> 施設の対応ができない。	
<input type="checkbox"/> その他( )		

2. 障がい児や発達が気になる子の受け入れで、留意されていることは何ですか。(複数回答可)

2. 障がい児や発達が気になる子の受け入れで、留意されていることは何ですか。(複数回答可)	<input type="checkbox"/> 保育者の人数を増やしている。	→設問3へ	
	<input type="checkbox"/> 特別支援の教育課程、保育プログラムを作成して、対応している。		
	<input type="checkbox"/> 教員の研修をしている。		
	<input type="checkbox"/> 特別支援ために保育方法を工夫している。		
	<input type="checkbox"/> まわりの保護者の理解を得る努力をしている。		
	<input type="checkbox"/> 行事の工夫をしている。		
	<input type="checkbox"/> 施設の対応をしている。		
	<input type="checkbox"/> 当該幼児の保護者の理解をうながしている。		
	<input type="checkbox"/> 市区町村の公的な相談施設などとの連携をしている。		
	<input type="checkbox"/> 園内に特別支援の担当者を指名している。(例・特別支援コーディネータ的役割)		
	<input type="checkbox"/> 定期的に園内で特別支援教育のための打合せをしている。		
	<input type="checkbox"/> その他( )		

3. この件についてご意見がありましたら、自由にご記入ください。

地区名 \_\_\_\_\_ 園名 \_\_\_\_\_ 記入者名 \_\_\_\_\_

ご協力ありがとうございました。

☆ ご返送は ・FAX可→ 03-3264-6195 に送信して下さい。  
 ・郵送の場合→ 〒102-0073千代田区九段北4-2-25私学会館 東京都私立幼稚園連合会